

I P Mとは

I P Mとは、Integrated Pest Managementの略で、総合的病害虫・雑草管理のことである。具体的には、病害虫の発生予察情報に基づき、化学的防除(農薬)に加え、耕種的防除(ほ場管理)、生物的防除(天敵等)、物理的防除(防虫ネット等)を適切に組み合わせ、環境に対する負荷を軽減しつつ、病害虫と雑草の発生を経済的被害が生じるレベル以下に抑制する技術体系である。

IPMのイメージ図

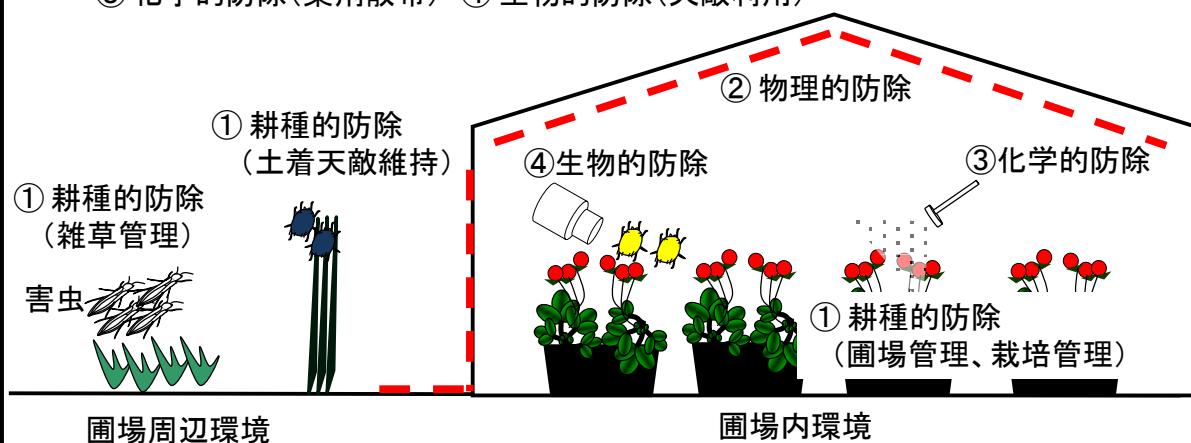
I 病害虫の発生状況の確認

II 病害虫の出にくい環境整備

- ①耕種的防除(圃場内・周辺の管理、栽培管理)
- ②物理的防除(防虫ネット)

III 適切な防除

- ③化学的防除(薬剤散布)
- ④生物的防除(天敵利用)



農林水産省(http://www.maff.go.jp/j/kokuji_tuti/tuti/t0000830.html)を基に作成

I P Mの実践では、①病害虫・雑草が発生しにくい環境をつくり、②発生予察などにより防除の要否とタイミングを判断し、③適切な防除技術を利用する。

以下に、作物ごとの主要な I P M防除技術について紹介する。

主要作物の I P M実践については、I P M実践指標が活用できる。